



普天間のうつりゆく風景

上の写真は一九五一(昭和26)年の普天間高校前通りです。

琉球王国時代に植えられた見事なりユウキユウマツがまだ残っており目を見張ります。また、前方奥には普天満宮があります。普天間権現のある普天間は、琉球王国



◀ 高校前通り
1951(昭和26)年

時代から中頭地方の最大の聖地でした。旅の安全祈願などで県内各地から訪れる参拝者で賑わい、普天満宮の門前は参拝者を相手にする多くの商店が並び、宜野湾で屈指の商店街に発展していきました。

下の写真は現在の普天間高校前の通りです。瓦屋根の平屋だった建物はコンクリート造りの高い建物になり、道もアスファルトになり多くの車が往来しています。

前方奥には普天満宮が、建物の間からかすかに見えます。

【問合せ】
市立博物館 ☎870-9317



◀ 現在の高校前通り
2018(平成30)年



はじめに

今月は昨年度調査が行われた西普天間住宅地区埋蔵文化財緊急発掘調査の内容をお知らせします。緊急発掘調査とは、開発工事によって壊されてしまう遺跡を事前に調査し、遺跡の情報を詳細に記録して後世に残していくことを目的としています。

調査の内容

西普天間住宅地区には多くの遺跡があります。今回紹介する遺跡は「普天間石川原第二遺跡」で、約三千年前から七十年前まで長く使用された遺跡です。

遺跡の調査では、縄文時代の堅穴(たてあな)住居とみられる遺構や六本柱(むつぽんちゅう)の建物が建っていたことが分かる柱穴(ちゅうけつ)と呼ばれる柱の跡、戦

前の井戸や屋敷跡など様々な遺構が検出されました。その中には不思議な遺構が数基確認されました。



石斧が入った大型土坑



剥ぎ取りを行った大型土坑

謎の落とし穴？

その遺構は、深さが約二メートル五十センチもあり、幅は八十センチ前後と深く狭い穴です。その中には石斧や土器といった遺物が入っているものもあれば、遺物は全く入っていないものもあります。一説には「落とし穴かも」という話もあります。その証拠は発掘調査中には確認することができませんでした。

今後、遺構の中の遺物や土などからこの落とし穴のような大型土坑(どこう)がどのように使われていたのか、調べていきます。また、展示などができるように、土層(どそう)の剥ぎ取りも行ったので、今後、市民の皆さまに見てもらう機会を設けていきたいと思えます。その際は市民の皆さんも一緒に、この深い穴がどのように使われていたか考えてみてはいかがでしょうか。

【問合せ】文化課 ☎893-4430